

第185回 番組審議会

1. 日 時 平成21年9月8日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F 「星雲東の間」
3. 委 員 委員総数 13名
出席委員数 10名 (欠席委員数 3名)

○ 出席委員 (敬称略)

中村 慶久 (委員長)
椎井 一意 (副委員長)
—以下50音順—
斎藤 雅博
東海林 千秋
菅原 正二
中川 真
中原 祥皓
村上 幸子
八木橋 伸之
吉田 浩次

○会社側出席者 (5名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)
小原 忍 (専務取締役)
藤澤 利憲 (常務取締役)
前田 秀男 (取締役編成技術局長)
高橋 聡 (めんこいエンタープライズ 制作部 担当部長)

○事務局 村田 重昭

4. 議 題 情熱エンジン

「海走! サッパ船アドベンチャーズ」

平成21年8月15日(土) 14:00~14:30放送

5. 議 事 概 要

今回は、情熱エンジン「海走! サッパ船アドベンチャーズ」について審議した。

各委員からは「田野畑村の魅力やそこで頑張っている人たちの生き生きした表情を見て自分も行きたくなった。」「観光というと名所、旧跡を見るだけというイメージがあるが、田野畑村では通過型から滞在型の観光を取り入れ、他の地域にも参考になることがたくさんあった。」「岩手にも、まだまだたくさんの観光資源があることを思い知らされた。」などの意見がありました。

一方で「頑張っている人やグループを紹介するという番組の趣旨からすると、もっと“人”に焦点を絞った方が良かった。」「東北7県で放送されているので、県外の人たちのために、田野畑村までのアクセス情報を入れてほしかった。」などの意見もありました。

6. 議 事

○事 務 局

ただいまより第185回番組審議会を開催いたします。

本日ご出席の委員は10名、ご欠席は斎藤純委員、久慈委員と役重委員の3人です。

今回の議題は、平成21年8月15日に放送されました、情熱エンジン「海走! サッパ船アドベンチャーズ」です。本日はディレクターを務めました、めんこいエンタープライズの高橋担当部長が出席しております。それでは、中村委員長よりお願いいたします。

○中村委員長

中村でございます。本日もよろしくお願いいたします。

さっそく議事に入りますが、最初に高橋さんから、制作側の立場でのご説明をお願いいたします。

○高橋担当部長

めんこいエンタープライズの高橋です。よろしくお願いいたします。今回、審議いただき

ます「情熱エンジン」という番組は、新潟を含めた東北7県のブロックネットで放送されています。2005年の10月から始まり、ナビゲーターは番組開始以来、辰巳琢郎さんが務めています。

この番組のコンセプトは、取材対象が地域を元気にするために頑張っているグループや団体で、その人たちの活動や思いをドキュメンタリーで描くことです。今回は岩手から“体験村・たのはたネットワーク”の「漁師体験プログラム」を取り上げました。“サップ船アドベンチャーズ”“番屋漁師ガイド”などのプログラムや活動を紹介するのはもちろんですが、村がこういった活動を始めた理由やコーディネーターとして働く若者の思い、インストラクターとして活躍する地元漁師さんの表情・心情などを随所に織り込みながら制作しました。ナビゲーターの辰巳さんには、評論家的な立場で取材対象と関わるのではなく、実際に田野畑村を訪れた観光客という立場で撮影に臨んでいただきました。その理由は辰巳さんを通して番組を見た視聴者の方々に、サップ船の面白さや臨場感を少しでも感じてほしいと思ったからです。本日はよろしくお願ひ致します。

○中村委員長

ありがとうございました。この番組は以前、二戸も取り上げていませんでしたか？

○高橋担当部長

二戸は今年の1月に放送しました。4月には盛岡の鉾屋町もやりました。

○中村委員長

では、さっそく委員の方からご意見を賜りたいと思います。中川委員お願ひ致します。

○中川委員

新聞も地域の活性化について広く報道すること、地域の人言葉で発信していくことが大きなテーマです。日本中で似たような事をやっているの、その面白さや個性を出していくのは大変な作業だと思いました。

今回の“サップ船アドベンチャーズ”は、あまり例がない取り組みです。役場よりもNPOが中心になっていて、しかも田野畑村の外から来た人たちが表に出て頑張っているのはすごいと思いました。三陸のある人から「こういう取り組みは本当に馬鹿者になって狂ったよ

うにやらないとうまくいかない。」という話しを聞いた事があります。村中ではむしやらになって取り組んでいるのが、番組を通してよく伝わってきました。特に私が面白いと思ったのは小学生の受け入れの時にNPOの人が、「基本的に漁師が海に出るような時であれば、同じようにやってもらいます。」と言われていたのが、今の時代の風潮と合わせてみるとすごく良いと思いました。「板子一枚の下は地獄だ。」というようなことを少しでも感じられる体験というのは、職業というものを考える意味でも、小学生にとってとてもいい体験だったと思いました。田野畑村の取り組みは、これからもっと頑張ってもらいたいと思います。

番組の中で観光客の入りこみの経緯や問題点が、分かり易く説明されていたのでとても勉強になりました。辰巳琢郎さんと地元の人とのやり取りの中で、そういう情報やポイントが伝わってくればもっと良かったと思います。辰巳琢郎さんはメッセージ性のある方なので番組のナビゲーターに採用されたのだと思いますが、ちょっともったいないと思いました。以上です。

○中村委員長

ありがとうございました。次に菅原委員お願いいたします。

○菅原委員

私は個人的に大好きです。船に乗って海側から見るのは、陸から海岸を見るのと全然違って凄く良いですし、面白いです。私の住んでいる一関は交通の便がいいためか、田野畑村のような努力が全くありません。田野畑が一生懸命やっていて偉いと思ったので、一関の人に少しは爪の垢を煎じて飲んでもらいたいと思いました。

字幕スーパーの「学習センター」で「学」が音楽の「楽」になっていましたが、何か意味があるのでしょうか。あれは単なるミスですか。

○高橋担当部長

ミスではありません。あれが正式で「楽しく習う」という意味です。

○菅原委員

音楽に関係したことが出てくるのかと思っていたのですが、見ていたら何もなかったのが間違いだと思っていました。あれで正しいのならば本物の看板を映しても良かったと思いま

す。屋号などや江戸時代の一揆のところもテロップを出した方が良かったです。あの一揆に関する文章を正確に読みたかったと思います。多少気になったのは、東京のお客さんが「訛がとっても良かった。」と言っているところです。なんか卑屈になってくる感じがして、私は嫌でした。よくそういう部分を使うことがあるのですが、あえて省略した方が良かったと思います。

それと、あの漁師さんたちは、普段は漁はしていないのでしょうか？気になりました。でも一生懸命やっておられましたね。

あの場所は絶景だけど不便でなかなか行けない所なので、そここのところを何とかしたいと思いました。大きい船、フェリーで行って、それからサップ船に乗るとか、陸路を行くと遠いので、海路に行くことができればいいなと思いました。

さっそく行って見たいと思いましたが、県南からだといっこう遠いです。ですから私は、普段は南の方の広田湾とか碁石浜に行っています。サップ船が面白いのは確かなので、ぜひ皆に体験してもらいたいと思いました。

○中村委員長

ありがとうございました。では、八木橋委員、お願いします。

○八木橋委員

海派と山派に分けますと私は海派です。久しぶりに海の話題だったこともあります。番組はとても良かったと思います。田野畑村の村長さんは本にもなった方ですよね。千葉大学の医学部長を連れてきて、診療所に何年かいてもらうようにした有名な人だと思います。

これは表(おもて)を見せる紹介番組にするか、裏方の苦勞を見せるかで変わってきます。表の活動を上手に拾った宣伝的な番組という意味では成功していたと思います。まず行政の人たちがやった長い時期があり、その後、住民が覚醒してNPOになりました。それだけでは足りなくて東京のコーディネーターが来て花が開きました。地元だけでは駄目です。地元の中でも誰か頑固な人がいて、長い時間かけて住民がまとまってきました。さらに、東京出身者のような人が入ってきて、うまくはまっています。こうした流れの紹介としては良かったと思います。紹介番組としては非常に良かったのですが、最初の行政の部分が欠けていました。たぶん行政の中に頑固な人がいてやったのでしょう。そこの紹介の部分がなかったのが残念でした。

特に私が好きなのは船の岩くぐりの場面で、非常に良かったです。岩場くぐりは、塩釜でも気仙沼でもやっています。遠くは勝浦でクジラウォッチングもやっています。かなりしけている時にすれすれに岩をくぐっていく映像があると、非常に迫力あって面白かったと思います。最近では危険だからたぶんやらないかもしれませんが。海がしけた時にくぐっていく迫力はもの凄いです。

船のプログラムを中心にやると5月からヤマセが出ます。そのような時にどうやっているのかが、ちょっと気になりました。県北は波が荒いし、湾が小さいのでしけた時はどうするのでしょうか？1年の間に90日間漁に出れば漁師の資格があるそうですが、いつも漁に出られるのかちょっと気になりました。いずれ紹介番組としては良かったと思います。

他には、体験者数が04年から08年で434人から5,868人になったという紹介は、分かりやすかったです。約10倍以上になったわけで、そんなに増えたのだなということが良くわかりました。

海から陸の紹介もありました。県北の農家、酪農農家が6,000戸ぐらいだったのが、ここ数年で3,000戸位になっています。田野畑でも牛乳が集まらない。アイスクリームが作れなくなっています。そういうところをどうやって乗り切るのでしょうか。「陸中心に」と言っていました。どうやって中心にしていくのか、牧場が全滅したらどうするのかなど、いろいろ考えさせられました。

突き詰めるとそうした問題もありましたが、紹介番組なので皆さんにも分かり易くまとめてあり、楽しく見させていただきました。

○中村委員長

ありがとうございました。次に斉藤委員お願いします。

○斉藤雅博委員

番組を見て田野畑村に行ってみたい、サツパ船に乗ってみたいと思わせれば、この番組は成功だと思います。私は行って見たいと思ったので成功だったと思います。わずか人口4,000人の村の取り組みが、従来の観光の概念を変えたのではないかと思います。私も北山崎には行った事があります。でも、上から見たのと、宮古からの観光船でずっと遠くから見ただけです。番組の中で滞在時間30分と言っていたのですが、大半の方がそうだったのではないかと思います。通過地点から体験型観光、そして、滞在型へ発展させるといことで、まさしく

地域活性化に成功した好事例だと思いました。

観光というと、どうしても平泉とか、八幡平、国立公園、名所、旧跡ということで景色や遺跡等と考えがちです。そこに暮らす人々の営みや生き方も観光資源であることに、この番組は気付かせてくれました。そういう点で非常に評価できると思います。番組の中で漁師のインストラクターの方が「漁師の生活体験などは、魅力があるとは思っていなかった。」と言っていました。我々が気づいていない宝が実際たくさんあります。観光ではそうした宝をたくさん発掘していくことが重要ではないかと感じました。岩手県でも委員会を作ってやっています。平泉だけではなく、もう少し本当の地元の良さを見つけて、それを観光に結び付けていくことが、地域の活性化にも役立つと思います。田野畑の活動はNPOの楠田さんという人の存在が非常に大きいと感じました。彼は東京出身ということですが、彼のように県外出身の方が岩手の良さを見つける事ができるのだと思います。仕事柄、東京からのお客さんを迎えることが多いのですが「そうだったのか」と気付かせられることがたくさんあります。そういった意味で彼の存在は非常に大きいと思います。

私の子供は学習旅行で、田野畑のサップ船に乗ったことがあります。やっぱり楽しかったと言っていました。子供の頃にあのような体験をするとリピーターの要素になるのではないのでしょうか。ぜひ子供を通じて観光の原点を作っていければいいなと思います。番組では、インストラクターや、地域の方、ホームステイを受け入れる家族の表情がとても明るく生き生きしていたように感じました。この取組みが本当に地域活性化に役立っているのだと思います。田野畑村の魅力、頑張っている人の姿を映像化した非常にいい番組だったと思います。

東北プラス新潟の7県、特に県外の方が行きたいと思った時に、あまりアクセスなどの紹介がありませんでした。県内の人であれば大体分かりますが、県外の方が行きたいと思った時にどうやって行けばいいのかということも、もう少し詳しく入れてほしかったと思います。実際、田野畑まで3時間近くかかります。高速道からどれぐらいかかるとか分かれば、実際に行きたいと思った人には参考になります。そうしたアクセスの紹介が少し足りなかったと感じました。

観光プログラムは、全部で20コースあるということでしたが、サップ船以外にどんなコースがあるのかも紹介してほしかったと思います。

私は冒頭お話ししましたように「行ってみたい」と思ったので、制作意図は十分に伝わった番組だと思います。

○中村委員長

ありがとうございました。では中原委員、お願いいたします。

○中原委員

田野畑は地域づくりや地域活性化という活動では、県内では指折りの高い評価のある地区です。ここを紹介するのは「なるほど当然だな」と思いました。この「情熱エンジン」が地域づくりを紹介しているということで、田野畑をピックアップしたのは良いことです。

田野畑村は行くのは大変ですが、けっこうアンテナ広く活動をしている地域だと思います。番屋群やサップ船もテレビのニュースなどで単発的には見っていますが、こうして30分でまとめて見ると、改めて素晴らしいところだという思いがしました。ここは官民の連携が強いという評価もあるところでもあります。住民やコーディネーターの人の話しにも参考になる意見がありました。斉藤委員が言われたように岩手県は遊休資産、遊休資源、まだ眠っているものがたくさんあるということ、また、他の地域でも取り組んでみたらいいのでは、という思いを呼び起こしてくれ、地域づくりを考えさせられる番組でした。

ひとつお聞きしたいのは、あの番組の中に旗がありましたが、あの中に小さいという字と丸が書かれていました。その説明が欲しかったと思います。三閉伊一揆の時にあの旗を立てて一揆を進めたということで、なぜ小さいという字と丸を書いているかと言いますと、あれは“こまる（小丸）”「困る」という意味なのです。そういう表現でああいう旗を作ったのだそうです。私はこの旗の意味を聞いた事があったので、気が付いたのですが、番組で説明がありませんでした。そうした説明があると、一揆のことやそういう時代があったということがよく分かったと思います。旗の小さな丸についても一言入れてほしかったと思います。

これは明日につながる番組ということで見させていただきました。「情熱エンジン」の趣旨に合っています。東北電力さんの提供で、東北7県での放送はなるほどと改めて思いました。こういう番組は県内の人にも当然見て参考にして欲しいです。他の県には、これをしのぐものがあるかもしれません。他の県の番組も岩手で放送すると思うので、比べてみるのも面白いのではないのでしょうか。

辰巳琢朗さんはいつ見てもあまりくどくなく、いいキャラクターで番組をナビゲートしてくれています。

この番組を見た人が「よし、俺たちも」という雰囲気になるのではないかと感じました。お金を掛けるということよりも、アイデアと行動力のある地域づくりは素晴らしいことです。

参考にしたいと思える番組でした。

○中村委員長

ありがとうございました。では、次ぎに村上委員、よろしく願いいたします。

○村上委員

30分間で内容も盛り沢山ながら、きちんと整理されており、ポイントも抑えられていて、あっという間に見終わってしまいました。もう少し見たいなと思える内容でした。

「情熱エンジン」の、地域を元気にする団体・組織を紹介するという趣旨に、まさにピッタリだったと思います。田野畑村は、観光パンフレットなどいろいろな地域のPRのものなどでも、全国的に評価を得ていたと記憶しています。そういった下地があったうえで、もともとあったものを生かし、それらを上手く組み合わせていろいろな事業ができていると思います。この番組を通してそういったことを、教えてもらいました。

滞在型の観光地をめざすのが目的だとありました。それよりも現役の地元の漁師さんたちが、お客さんを船に乗せて冗談を言ったり、ホームステイの漁師さんも「どんどん連れてきて下さい」と言ったり、地元の人たちが地域を誇れるようになった訳ですが、そちらの方の財産がすごく大きいことだと考えさせられました。

田野畑の方々が生き生きとした表情で「こんなこともできます」とアピールする機会は、何か刺激がないと出てこないと思います。このネットワーク自体がそうした作用をもたらしています。他の地域興しの方々にも、非常に参考になる内容が盛りだくさんだったのではないかと思います。

体験学習に参加した一方井小学校の子供たちが、番組後半で目がキラキラしてきた様子から、まさに生きた教育、学習する機会だということがよくわかりました。最後の方で東京から、いろいろな年齢層の方々がツアーに来ていました。そうした広がりを見せて年間5,000人を超える人たちを集めることができたことについては、実際のお客さんの表情がそれを物語っていました。山地酪農のシーンも少しありましたが、内容をもう少し拾ってもらえれば海と山のコンストラストがはっきりし、山にもこんな魅力があるのだなと分かったと思います。いずれにしても人がたくさん出てきて、生き生きとした表情を見せてもらって本当に良かったと思います。

○中村委員長

はい。ありがとうございました。次ぎに東海林委員お願いいたします。

○東海林委員

地域の活性化は本当に深刻な問題です。例えば岩泉高校田野畑分校という学校がありますが、実はもうすぐ閉校になってしまいます。去年、釜石で仕事をしたことがありますが、田野畑村に限らず岩手県の沿岸部には本当に仕事する場がありません。そこから若い人がいなくなっています。その、人がいなくなるということは、結局、行政に見放されることにつながってしまいます。私も盛岡では町の青年部に属しているので、地域の活性化については勉強しなくてはならない課題だと思っています。

田野畑村の取り組みで、東京出身の若い人をリーダーにしたことは成功だと思います。実は先日「地域の活性化とメディアの関わり」という勉強会が岩手大学であって参加してきました。ポイントは「よそ者、若者、馬鹿者」の3つであるということだそうです。今回、東京出身で若い方がリーダーとして一生懸命やっていて、まさにそのものだという思いを強くしました。

もう一つ、勉強会の中でバルネラビリティという言葉が出てきましたが「誘発力、誘引力」という意味です。単なる誘引するのではなく弱みのある程度見せないと、それが相手のことを引くことにはならないというのです。そこが今回のたぶん“番屋ツーリズム”だと思いました。また「サッパ船アドベンチャーズ」は面白いタイトルだと思いました。エコツーリズムは釜石でもやっています。釜石でもサッパ船を利用して、漁師さんたちが沖にあるホヤの養殖棚まで連れて行って見学させています。そこから取ってきたホヤを浜で炭で焼いて食べさせるツーリズムがあります。他にはワカメの芯抜き作業を体験してもらうものもあります。問題はせっかくいいプログラムが出来ても、プロモーションがないとお客様は来てくれない、ということです。そういう意味で、今回、情熱エンジンで田野畑村を取り上げてくれたことはすごく良かったと思います。

釜石は広告が下手なので、なかなかテレビに取り上げてもらえません。テレビで取り上げてもらうのが一番だと思いました。辰巳琢郎さんには、東北電力さんと組んでもっともっと仕事をして欲しいと思います。

あとはシーズンオフが課題だと思います。岩手の場合、冬の間お客さまが立ち止まってしまいます。「サッパ船アドベンチャーズ」は、私もすごく良いと思ったので行こうと思った

のですが、これから寒くなると難しいです。そのような課題をクリアしながら、テレビの番組で取り上げてもらって、自分たちの地域に誇りをもてるようにしていただきたいと思いました。

○中村委員長

ありがとうございました。では、吉田委員お願いいたします。

○吉田委員

田野畑村については、私も非常に興味をもっています。随分前のことですが、元村長の早野さんにお会いしました。将来の田野畑村のあり方について熱き思いを語られていたことが脳裏に残っています。そういう意味では田野畑村はそういった下地が出来ていたのだなと思いました。

この番組については地域経済の活力をどうやって紹介するか、その意味では狙い通りに表現が出来ていたと思います。私は北山崎には何回も行ってきます。正直のところは、あそこは断崖絶壁の素晴らしい景観を見るところ、という認識しかありませんでしたので、これだけ観光として楽しめる所があったのかと思いました。いろいろなプログラムがあるようですが、知らない人が大半だと思いますので、もっとこれをPRすることが大事だと感じました。

この番組を見た人たちは何を感じたのでしょうか？エリアとしては東北地区、新潟を含めて、どこの地域でも地域興しで試行錯誤をしています。番組の中で「本当に半信半疑で、こんなことをやっても人は来ないと、殆どの人がそう思った。」とっていました。どこの地区でもそんな状況だろうと思います。その意味ではひとつの成功事例として「なんだ、こんなことができるのか」というきっかけを与えた番組だと思いました。これだけで終わるのではなく、どういう形で活用させていくのかを考えるべきだと思います。仕事柄ですが、私は今回の番組の中で体験学習にとっても興味を惹かれました。今の生活者・消費者がどんなことを一番望んでいるのか。この時代はどんなところに流れて行くのか。生活者の潜在欲求を探るということで、さまざまなデータがあってそれを読んでおります。その中で今の消費者、生活者はただ物を見るということよりも、自らが体験をしたい。何かを身に付けたい。実感をしたい。何かを育てたい。そういうニーズ、欲求が非常に高く出ています。そういう意味では、今回の体験学習は非常にいい所に着目しています。これはまだまだいろいろな創意工夫によって広がりが出てくると思いました。

番組タイトルを見た時に「サップ船アドベンチャーズ」と書いてありました。サップ船によるアドベンチャーだけが番組のタイトルとして出ていたので、番組を見た時に想像したものと内容がちょっと違うと思いました。番組の広がり表現する意味で、町が変わり、成功して、こんな楽しい観光の仕方がありますといったテーマで、タイトルを設定する必要があったのではないかと思います。新聞、その他に番組のタイトルが出る時にそこで印象が決まります。アドベンチャーだと何か冒険的なものと思ってしまう。そこを狙ったのだらうとは思いますが、タイトルの付け方をもう少し検討してもらいたいと思いました。

○中村委員長

ありがとうございました。では、椎井副委員長お願いします。

○椎井副委員長

当社提供番組を皆様に見ていただいた事、加えて番組に高いご批評をいただいたことに感謝したいと思います。私どもの会社も苦しい経営の中で莫大な経費を投じながら、こういった番組を作っています。皆様からこういう評価をいただいてほっとしているところであります。

私も若い頃、広報室でテレビの担当をしていました。そういう意味では、大変感慨深いものがあります。皆さん方は、なぜ新潟もネットするのかと思うかもしれません。東北電力は新潟も含めて電気を提供しています。そういう意味で番組は、新潟を含めて東北7県でやっています。

番組のタイトルが「情熱エンジン」ということですが、番組全体を見て、岩手の情熱は一種独特なのかなと思いました。県知事さんもおっしゃっているように「沈心牛の如し」ということで、あまり表面に興奮的なものは感じません。内に秘めたる情熱、その情熱を感じるのですが、表面にあまり出てこないと全体的に感じました。

私も若い頃に宮城県に出向したことがあり、その時に地域興しに携わりました。今は大崎市になりましたが、宮城県の県北の旧古川市の地域興しに関わったことがあります。古川はササニシキの本場です。当時は冷害のため、かなりの不作でした。その時に米に頼っていたのではこの地域は駄目になると思いました。米以外のものを何か作らなくてはいけないということで、県が1.5次産業、付加価値を付けた一次産業プラス0.5ということで、米を加工して商品を出そうとしました。その時からの経験からしても、いつの時代も「地域活性化、地

域づくり」は「人づくり」だということが言われていました。皆さんがおっしゃっているように、一つの仕事に寡黙に一生懸命取り組んでいて、一方では地域の人たちに相手にされなような人たちが黙々と地域興しに取り組んでいる。自分の思いを一つの仕事に導入しながら立ち上げていくのが基本です。人づくりが地域づくりです。今回の番組の中でもきちっとそれが表われていると思いました。その「人」というのは意外によそ者が多いものです。

「よそ者、若者、馬鹿者」というのは岩手銀行の永野商工会議所会頭さんもいろんな所でおっしゃっていました。そういった人たちは新しい感覚もあるし、地域でのいろいろな係わりがないので思い切ったことがやれます。ですから、そういう人が中心にいます。ただ、ここまで来るには随分苦労したのではないかと思います。すんなりここまで来たのではないはずで、地域の人たちをあれだけ巻き込んで、ひとつの大きなプロジェクトを作るには相当な苦労があったらうし、たぶん失敗もあったと思います。これからもこうした活動を継続させていかないと物になりません。その過程には失敗もあるでしょう。チャレンジして失敗するのは、チャレンジしない人よりも間違いなく進んでいます。失敗を繰り返しながらより一層いい物になってくると思っていました。

ただひとつ、残念なのは番組全体を見まして、田野畑村の紹介番組になっているという感じがしたことです。もう少し「人」に焦点を当てて描いてもらった方が良かったと思います。

「情熱エンジン」という番組の趣旨からして、地域だけではなく「人」にターゲットを当てた紹介があっても良かったと思います。

ホスト役の辰巳琢郎さんが主役であってはいけない訳です。地域の人たちが主役でなくてはいけません。辰巳琢郎さんが目立たない方がいいと思います。

最後に番組の放送時間が土曜日の午後2時なので、あまり番組を見る方はいないのではないのでしょうか。もう少しいい時間帯にもってきたら、もっとPRになるのではないかと思います。

○中村委員長

ありがとうございました。

私はタイトルを見せていただいた時、海を走る「海走！サップ船アドベンチャーズ」って何だろうかと思いました。辰巳琢郎さんが出てきた時に「あっ、これか。今回は無難なものできたな、手堅くきたな。」という気がしました。その後30分安心してあっという間に見ました。番組の素材としては皆さんがお話したように、大変素晴しくて非常に良かったと思

います。ナビゲーターの辰巳琢郎さんの番組進行も手馴れていて、安心感がありました。ただこの前に二戸の時に見たものよりも、手馴れ過ぎている感じがしました。

久しぶりに岩手に帰ってきてこういう番組を見させてもらって、ある意味では涙が出るくらい嬉しく思いました。田野畑は私も車でよく通りますが、結局、北山崎の上から下を眺めただけで帰って来ます。良さそうな所なのですが、あまり楽しめないという思いでいつも通っています。ひとつの観光資源を見つけて作り上げていくことは大変嬉しいものです。

しかも漁民の方々が一生懸命もてなしている姿を見ると、岩手も少しずつ地域興しが進んでいると感じました。私も常日ごろ感じていることは、岩手の人は自分たちの持っているものをあまり誇大に宣伝しないということです。むしろ隠す嫌いがあります。「こんなもの」ということがよくあります。私も旅行が好きであちこち出かけて、旅行案内書を手にいろいろな所に行きます。旅行案内書に書いていることには意外にくだらないものが多くて、「なんだこんなもの」というのが多いと思います。盛岡に帰って来ると、もっとこれを売り出したらいいなと思えるものがけっこうあります。例えば喫茶店ひとつをとっても、いい喫茶店が盛岡にはまだ残っています。そういうのはあまり宣伝されていないので、せっかく盛岡に来て、そこを知らないで通り過ぎてしまいます。たぶんそういうところで休んでいただくと「ああ、盛岡ってこういう所だ」と、もっと良さがわかってくれるはずです。

今回、漁民の方々が「見られるのは格好悪いとか、こんなもの」だと思ったものが観光資源として、特に都会の方々に喜ばれていて、漁民の方が生きがいを感じているのを見て大変嬉しく思いました。ひとつの観光資源としての点を掘り起こしていただきました。こういうものはまだまだ岩手の中にはあるだろうと思います。それらの点をもっと線に繋いで行くことによって観光という形、あるいは癒しの地域として、都会の人たちが「岩手はいいね」と言って、来てくれるような資源はまだまだ残っています。ぜひそれを掘り起こしてもらいたいと思います。

そういう意味で東京から来た楠田拓郎君の功績は非常に大きいと思います。それだけに椎井副委員長がおっしゃったように「情熱エンジン」が何を狙っているのかという事があります。もう少し、楠田君を掘り下げてほしかったと思います。なぜ、田野畑に来たのか？田野畑のどんなところに惚れてきたのか。どんな考えで来たのか。プライバシーの問題もあるかもしれませんが、東京ではどんな生活をしていたのか。それに対して田野畑ではどうなのか。もう少し描かれていくと、彼の情熱みたいなものが番組の中に浮き上がってきたのでは、という感じがしました。村役場の渡辺さんが彼のことを話していましたが、その辺の人間関係

もう少し深掘してもらえれば、番組としてももう少し面白くなったかなと感じました。

30分があつという間の大変素晴らしい番組でした。難を言えば素材が多過ぎました。紹介番組だからということもあるのかもしれませんが、あれもこれもといろいろな物が入っていて、山から海から、海も昔の展示してあるところから、実際にサップ船に乗るなど、いろんなものがありました。時間があればいいかもしれませんが、もっと絞ってもらっても良かったと思います。

例えば小学生の体験学習は番組の目玉だったと思います。もうひとつ消化不良というか、もう少し子供たちが喜ぶ姿を描いてほしかったと思います。せっかくの美味しいウニをあの一言で片付けられてしまうのは、もったいない気がします。最後に出ていた都会から来た観光客の反応も言葉ではなく、「方言が良かった」というのであれば、船に乗っている時に船頭さんが方言で話しているところの雰囲気伝えてほしかったと思います。「サップ船が良かった」というのであれば、波乗りしているところで「ワアっと」皆が騒いでいる場面があると、話しを聞いているよりも、番組としては良かったと思いました。

残念だったのはこの絵をVHSのテープで見たのであまり綺麗ではありませんでした。せっかくの海の景色があまり良く見えませんでした。天候が悪かったこともあるかもしれませんが、欲を言えばもっと海を綺麗に映してもらいたかったです。でも、とにかくあれだけの素材を30分番組に仕立て上げるのは大変だったというご苦労を感じました。

先ほどもありましたが、夏がこうなら、冬はどうなのか。冬にも何か面白いものがあるのではという感じもしました。大変素晴らしい番組を見させていただき、ありがとうございます。

○中村委員長

それでは欠席委員からのレポートがあれば、事務局から報告をお願いします。

○事務局

斎藤純委員と久慈委員からレポートが届いております。

○斎藤純委員レポート

番組内で一方井小学校の生徒が体験学習していた。その一方井小学校のある岩手町と田野畑村は、北緯40度に位置している。何らかの連携を、と行政も模索してきたが、実を結んでいない。

岩手町立石神の丘美術館に芸術監督として招かれたのを縁に、北緯40度連携にも取り組んでいきたいと思っていたところだったので、田野畑村の体験学習は参考になった。

番組のおしまいで、辰巳琢郎さんが「地元の人が地元の魅力に気づいていないことがある」とおっしゃっていたが、それは岩手県全体に言える。

ところで、その辰巳さんについて、前にも同じことを言ったが、活かしきっていないのが残念だ。スケジュール（制作費）の都合もあるのだろうが、辰巳さんにもう少し実際に体験してもらおうほうが番組として説得力が出るだろう。

それにしても、4,000人を若干上回る程度の人口の田野畑村には、民俗博物館をはじめ立派な施設がある。国の補助なしでは実現しなかったであろうハコモノだが、どういう形で国から引き出したのか教えてもらいに行こうと思った。

○久慈委員レポート

「情熱エンジン」を拝見しました。今回は田野畑村のサツパ船の話でした。今までこのサツパ船ばかりがニュースなどで取り上げられており、これを含むまちおこしの部分があまり見えなかったのですが、今回の「情熱エンジン」ではそこを取り上げてくれてなるほど、と感心しました。田舎にいると「ないものねだり」が多いのですが、この田野畑村のように「あるもの生かし」をしていくことの大事さを改めて感じました。

○中村委員長

ありがとうございました。

これで本日の番組審議委員会を終了させていただきます。

○事務局

ありがとうございました。では本日の番組審議会をこれで終了いたします。

なお、今回の審議会の模様は9月19日（土）朝4時42分から「めんこいテレビ批評」として放送いたします。

次回は10月13日（火）に開催となりますので、よろしくお願い致します。

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

8. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

*平成21年9月9日(水) 産経新聞 東北

* 平成21年9月19日(土) 午前4時42分から4時45分まで「めんこいテレビ番組審りレポート」内で放送

* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9. その他の参考事項

特になし